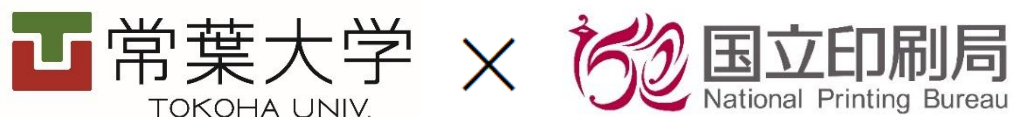


2026 年 10 月 15 日

国立印刷局の工芸官による特別講義を 10/23（金）に開催

～ 日本銀行券と国立印刷局工芸官の技巧 ～



2026年10月23日（金）に、常葉大学静岡瀬名キャンパス（所在地：静岡県静岡市葵区瀬名一丁目22番1号）にて、国立印刷局の工芸官による特別講義を実施します。常葉大学における特別講義の開催は、初となります。

【開催詳細】

日 時：2026年10月23日（金）

11:15-12:15 スライドレクチャー、習作品の展示・紹介

13:15-13:30 凹版彫刻実技の説明・実演（工芸官によるエングレーヴィングの実演）

13:30-15:40 凹版彫刻の実技指導（工芸官が学生にエングレーヴィングの実技指導）

受講対象：常葉大学 在学生、教職員

場 所：常葉大学静岡瀬名キャンパス（静岡県静岡市葵区瀬名一丁目22番1号）

スライドレクチャー 3号館3418教室、実演・実技指導 3号館3115教室

アクセス：JR静岡駅から路線バスで約25分、下車した後徒歩で約5分

JR草薙駅から路線バスで約15分 下車した後徒歩で約5分

過去の特別講義の様子



国立印刷局より

独立行政法人国立印刷局は、日本銀行券の製造をはじめ、官報、パスポートなど国民生活に密着した製品を製造している組織です。当法人は、明治4年（1871年）に大蔵省紙幣司として創設され、国民の皆様からの「信頼」に支えられ、令和3年に創立150年を迎えました。国立印刷局には、「工芸官」と呼ばれる専門職員が在籍しており、国民経済に不可欠なインフラストラクチャーである日本銀行券やパスポート等のデザインや原版の製造を担っております。

国立印刷局が製造する日本銀行券などの原版作製では、現在も工芸官による手仕事の中核をなしており、ビュランという金属の細密彫刻に適した専用の彫刻刀が用いられます。このビュランを使いこなすには熟練を要し、長い年月と根気が必要とされます。この講義では、国立印刷局の工芸官がどのように緻密な画線を彫り進めているかを知ることができます。

そして、令和4年度から国内の芸術系・美術系大学の学生を対象として、工芸官の高い技術と細密な彫刻を次世代に伝え継承すること、美術や芸術を学ぶ学生のキャリアプランの可能性や選択肢等を提供する機会として特別講義を実施してきております。令和7年度までに17大学、1専門学校及び1工芸高校において実施し、今回は、常葉大学造形学部にて、凹版彫刻に関する特別講義を開催させていただきます。

常葉大学 造形学部

この度、独立行政法人国立印刷局の皆様をお迎えし、本学において特別講義を開催いただけますことを、大変嬉しく思います。

国立印刷局静岡工場は、本学と同じ静岡市にあり、日本銀行券をはじめ、社会の信頼を支える重要な製品の製造を担っています。学生にとって、全国的にも重要な役割を担う施設が身近な地域にあることを知り、そこで受け継がれている高度な技術や仕事に直接触れることは、美術工芸文化を体現するとともに地域を新たな視点から捉える貴重な機会になると考えています。

私たちが日常的に手にする紙幣には、細密な彫刻や図案、文字、色彩など、さまざまな造形表現が凝縮されています。普段は価値や機能に目を向けがちな紙幣も、一つの造形物として見つめることで、長い歴史のなかで培われてきた技術と、人の手による緻密な仕事に気づくことができます。紙幣は、いわば私たちにとって「身近な芸術」ともいえるでしょう。

工芸官の皆様が担うビュランによる細密な彫刻や原版製作など、デジタル化が進む現代においても受け継がれる高度で卓越した手仕事に触れることは、アートやデザインを学ぶ学生にとって大きな学びとなります。本学造形学部では、地域との連携を通して、身近に蓄積されてきた技術や文化を知り、芸術と社会との関係を考えることを大切にしています。今回の特別講義が、学生たちにとって静岡に根ざす技術や仕事への理解を深め、自らの学びと地域社会とのつながりを考える契機となることを期待しています。

今回の交流が、常葉大学と国立印刷局との継続的な連携へと発展し、優れた技術や文化を次世代へ伝えていく機会となることを願っています。

〈本件に関するお問い合わせ先〉

常葉大学 入学センター

TEL：054-263-1126

E-Mail：nyushi@tokoha-u.ac.jp

国立印刷局広報官室

TEL：03-3587-4210

E-Mail：proffice@npb.go.jp